

# 1, 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471503650
法人名	瀬戸電設工業株式会社
事業所名	グループホームふる里津之郷の家
所在地	福山市津之郷町津之郷1085-1 (電話) 084-951-8382
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 19 年 12 月 26 日

## 【情報提供票より】(19年 11月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <input checked="" type="radio"/> 16 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	21 人   常勤 16 人   非常勤 5 人   常勤換算 19.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨(耐火建築物)造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青景医院、いそだ医院、竹山歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成19年12月26日

事業所の周りは田んぼや畑が広がっていて散歩の時などは地域の人達とのふれあいもでき、利用者も自然体で穏やかに過ごされている。施設長、管理者とも前向きで責任感も強く日々質の向上に取り組まれている。職員も利用者との関わりを大切にされ、自分の親だという気持ちで接し利用者の第2、第3のふる里と思ってもらえるような環境作りに努められていると共に、チームケアの大切さを理解され、協力体制が出来ている。地域に溶け込めるよう、さまざまな企画をされ、気軽に訪問してもらいながら交流を深め、利用者が地域の中で安心して生活出来るような事業所となるよう努められている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点の緊急時の対応については研修を積み重ねられ取り組まれていた。又市町村との連携についても積極的に情報提供をされ、運営推進会議にも参加してもらえる予定となっている。
重点項目	各ユニットの職員全員で意見を出し合い自己評価を行った。
	各ユニットの職員全員で意見を出し合い自己評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	外部評価の結果と改善策の取組状況を報告し、参加メンバーからの意見、要望を受けながら、具体的な取り組みにつなげると共に現在取り組んでいる内容についても検討してもらいお互いの交流を深めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議にも参加されていて、関係者との安心した交流が出来る。又家族会や訪問時にも、意見や要望を引き出すよう働きかけている。玄関に苦情箱も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会にも加入され、敬老会や運動会、地域の清掃活動にも参加し地域住民との接点を多く持つよう取り組まれている。近隣の小学生や中学生などが遊びに来たり、子ども達との関係づくりもされている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者にとって第2第3の故郷となるような環境をつくり、地域と家族が支え合いながら暮らしていくことを目指した理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時、理念を復唱し実践に向け取り組んでいる。又各ユニットで今日の目標を決めてスタッフの連携を取りサービスに繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、秋祭りなど地域の行事にも参加している。又小学生、中学生のボランティアも受け入れるなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は皆で話し合い作成している。外部評価については全職員が意義を理解し、改善努力に努め職員の気持ちを新たにして具体的なサービス向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地域の代表者や利用者の家族を含めた13～14人の参加メンバーに対し、事業所の評価の取り組み状況について、又行事の取り組み状況等についての報告を行い、沢山の意見を聴取しサービス向上に努めている。議事録も作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	次回の運営推進会議には参加してもらえようお願いをすると共に事業所の実状なども伝えていく取り組みもしているが十分ではない。		地域密着型サービス事業の推進に色々な観点から、市との関わりを密にし情報提供やアドバイスを得るような取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回、金銭管理の報告の際、日々の健康状況や暮らしぶりについて文書で報告している。又訪問時にも話し合う機会を持つようしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問時に意見や要望を気軽に話してもらえよう雰囲気作りに努めている。玄関に意見箱も設置している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化するよう務めると共に、馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月順番に他の事業所で介護や口腔ケア等本人がテーマを決め3日間の研修をしている。研修内容も、月1回のミーティングで報告し、全職員に周知している。法人外の研修にも希望により参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	タウンソーシャルワーク連絡会議に参加し同業者との意見交換を行ったり、グループホーム協会主催の勉強会にも参加し、そこで学んだ事をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		家族、利用者に見学をして貰い、職員とも十分話し合う中で理解を得ている。又お泊り体験サービスを利用しながら徐々に馴染んでもらえるよう取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		スタッフは利用者を自分の親のように思い、毎日を穏やかに過ごして欲しい気持ちを持ち介護に望んでいる。共に支え合う関係を工夫しその人の得意分野を見出し、食事の準備なども一緒にしたり、又菜園作りでは教えてもらったりしている。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
	14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日々の関わりの中で意思の把握に努めている。思いを伝えられない人には家族から情報を得ながら本人本位に検討している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		日々のケアの中で一人ひとりの状態を把握し、月1回のミーティングで意見を出し合い介護計画を作成している。又家族や主治医の意見や要望も反映している。
	16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、見直し以前に対応出来ない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		毎月見直しをしている。状態変化が生じた場合はその都度、現状に即した計画を作成している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望や要望により、通院の支援など柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、かかりつけ医で受診できるよう支援されている。又事業所の協力医療機関でも適切な医療が受けられる仕組みとなっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方についての対応に関わる指針を家族に説明をされ納得して貰っているが、今後も引き続き家族、主治医、協力医療機関、職員全員で繰り返し話し合い共有していくよう取り組みたい。		今後も更に家族、主治医、職員と話し合いを十分され、お互いが共有していける取り組みに期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉使いや対応はとても丁寧で公平である。個人情報管理についても配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのリズムに合った生活が出来ていて、職員は、利用者の笑顔を見る事を幸せと感じながら、日々支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や食器洗いなど、出来る事は職員と一緒にされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みの時間に合わせた入浴支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合った役割を持ってもらったり、買い物や外出などの支援もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、買い物や博物館、アミューズメント施設への外出、又希望により外食などにも出かけられる。外出する事により生活に変化をもたらす取り組みや工夫がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを徹底し、鍵をかけない取り組みをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議に提案したり地域との関わりを大切にしている。消防署との連携が出来ていて消火器の使い方も年1回訓練を行う、又消防に関する道具の設置場所の意識付け等も常にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量も把握され、不足がちな人には外出や散歩後等で確保できるよう努めている。栄養バランスは内容を検討したり、色どりや食をそそる盛り付けを工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は全て危険箇所もなく、清潔で、季節感も採り入れられていて、居心地よく過ごせる場であった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の居室もあり、使い慣れた物も持ち込まれ、思いおもいに工夫され、清掃も行き届いていて気持ちよく過ごされている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ふる里津之郷の家(1階 ひまわりユニット)

評価年月日 2007年 12月 26日

記入年月日 2007年 11月 15日

記入者 代表/管理者 氏名 池ノ内 昌義



# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域同士、家族同士が支え合い、笑顔にあふれる古き良き時代を理想とし、それぞれにとって第2、第3のふる里となる存在を目指し、そのために努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目につく所に理念を掲示してある。また朝礼において、理念を皆で読み上げている。 職員一人一人が理念を理解し、実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時など、おりに触れ、繰り返し伝えている。また地域住民の方々には、散歩時やホームの見学の場面で、分かりやすく説明をしている。そして、ふる里便りやパンフレットを活用している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけたりして、地域の人たちと触れ合う努力はしているが、まだまだ不十分な気がする。特定の人たちだけと顔見知りだと思う。		気軽に声をかけていただけるよう、挨拶や声かけをすすんで行き、顔を覚えていただく。また、近所の店などにも買い物に出かけたり、病院での待合室で顔見知りになるなど、和を広げていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りのお神輿が立ち寄って下さったり、ボランティアの方や子供達の来訪、ふる里の行事への参加等々、地域の方達はホームへ足を運んで下さっている。ホームとしては、町内会に加入はしているが、地域活動への参加はできていない。		地域の中に溶けこんでいくために、敬老会や運動会等々への参加を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民を対象に先生を招いて、講演会を開いた。また人材育成の貢献として、実習生の受入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全員に説明し、理解を得た。自己評価については、全員で話し合いを行った。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度、運営推進委員会を開き、年間行事等の報告をし、行事にも参加していただいた。その際、利用者や施設のことは見ていただいている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者との交流は見られない。		積極的に担当者に相談に行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	おぼろげながら理解は出来ているが、きちんと把握できていないので、研修等を通じて理解に努めていきたい。		研修等に参加し、勉強していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加をした人が、ミーティング等で他の職員に説明をしている。これからも、事業所内では、高齢者虐待関連法について学んで生きたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設長、管理者とで十分な説明をしている。また不明な点についても、遠慮なく相談していただき、理解を得て、契約をしていただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者としっかり関わりを持ち、言葉や態度、表情などから不満、不安を読み取るよう努力している。利用者の不満や意見などは、その時点で話し合い、早期に解決できるように努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当者を決めて、ご家族に近況報告等のお手紙を出している。ご家族が面会に来られた時には、更に詳細な報告をさせていただいている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が何でも話していただけるような関係作り、雰囲気作りに努めている。又、行事等に参加していただいた時には、感想や御意見を尋ねるようにしている。ホーム玄関にも意見箱を設置している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングを行っている。また、業務日報にも意見が書けるようになっている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ゆとりのある職員数で、無理のない勤務体制が出来ている。利用者や職員の状況に応じて、勤務の調整も可能である。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化し、馴染みの関係を大切にしている。やむを得ず、職員が変わったり、新しい職員が入った時は、利用者నికిちんと紹介している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修があれば、参加してもらうようにしている。 またその研修報告も、月に1回のミーティングで発表してもらい、他の職員の勉強にもなっている。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修があれば、出来るだけ参加するようにしている。 その中で事業所外の人意見や、経験を聞いて帰り、他の職員への助言やケアに活かしている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の人間関係の把握に努めている。 必要に応じて話をしたり、食事を食べに行ったりしている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け、出勤日の調整など勤務に対する協力支援をしている。 また、月1回の自己評価表を記入し、向上心を持たせるようにしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談において、生活状況をしっかり把握し、不安を最小限にとどめるようにしている。 また契約をする前に、体験入居をされる方もおられる。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が相談しやすい雰囲気作りを心がけている。 ご家族の訴えを聞いて、どのような支援ができるかを考えさせていただきます。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、他の施設やサービスを紹介している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学に来ていただいたり、体験入居を利用いただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、家族のような関係になっている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が話しやすい関係が出来ているので、利用者本人を支援していく為の協力関係が、しっかり築けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1回、近況報告のお手紙を出している。行事に参加していただいた時や、面会に来ていただいた時等は、ご家族水入らずで過ごしていただいたり、ご本人の思いを代弁したりしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家の近くへドライブに行き、顔見知りの人に声をかけていただいている。また月に1回来所される美容師さんが地域の方なので、馴染みの人が多い。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やおやつの時間は、職員も一緒にテーブルにつき、会話を引き出すようにしている。 利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役になることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまで、やむなく退所となられた方は、病院にてお亡くなりになられたので、現在の時点では、該当者はおられません。が、入院されている間、職員は頻りに面会に行くようにしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、見守りをしっかりとし、把握に努めている。言葉や表情を読み取って、利用者本人の思いを確認している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人やご家族にどんな生活をされていたのかがっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	勤務者が交替しても、介護記録によって利用者一人一人の1日の様子が分かるようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月1回のミーティングで利用者一人一人のケアについて話し合い、後日、管理者以下数名で、作成している。また主治医の意見、ご家族、ご本人の要望も考慮している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画を見直している。その他、必要に応じて、その都度見直すこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにケア記録、状態、身体的状況、利用者本人の「言葉」等々を記入し、職員間の情報共有を徹底している。また、この記録を基に介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、多機能性を活かした支援はしていない。		空室を利用した短期利用共同生活介護の実施を検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴、フラダンス、歌、手品、小学生等、ボランティアの方は定期的に来訪して下さっている。警察、消防署と連携を取り、救命救急の訓練もしている。また、職業体験学習や実習生も受け入れている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回の訪問美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員にも参加していただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人やご家族の希望する、かかりつけ医になっている。また、皮膚科、眼科、外科、認知症外来等、利用者本人、ご家族の希望に応じて受診介助をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師は、認知症について相談できる。また、適切な認知症外来を紹介して下さるので、必要に応じて、受診介助をしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、日常の健康管理や状態変化に応じた支援を行える。また、協力医療機関の看護師とも密に連絡が取れる関係である。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、医療機関に情報提供を行い、不安なく治療に専念していただいている。また顔を忘れないように、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、ご家族とも密に連絡を取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、主治医の協力の基に、グループホームでも看取りが増えてくると思うが、現時点では、当事業所では実践例がない。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点では医療連携加算に伴い、「重度化した場合の対応に係る指針」をご家族にご説明させていただいている。今後はご家族、主治医を交えて、当事業所が出来る支援を考えていかなくてはいけないと思う。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	急激な変化に戸惑わないよう、これまでの暮らしぶりやケアプラン支援状況等の情報を提供している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉のかけ方に疑問を感じた時は、お互いに注意し合っている。個人情報保護法については、秘密保持の徹底が図られている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者本人と話をしていく中で、ご本人の希望や思いなど、受け止めてあげている。また食事の献立を決める時には、利用者の希望を聞いている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩、昼寝等、利用者本人の気持ちを尊重しているが、どうしても時間に振り回される事がある。一人一人の体調に合わせて、ゆとりを持った支援をしていきたい。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自立している方には、利用者本人の思うようにしていただいている。自己決定が難しい方には一部介助や全介助している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を一緒に考えていただくことがある。また、もやしの根を取ることができる方には、お手伝いをしていただく。食事は、職員も同じものを同じテーブルと一緒に話をしながら、楽しく食べている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やたばこを飲む方がおられないので、お好きなものを聞いて、おやつを買ってきます。おやつも同じテーブルと一緒に食べるので、違うおやつだとケンカになります。全員、甘いものが好きです。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記録しているので、利用者本人の時間に合わせてトイレ誘導をしている。 尿意のある方には、訴えのある時に誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員お風呂がお好きなので、入浴の時間を待ち望んでおられる。 その日の体調が悪い方以外は、毎日入浴されている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠スタイルを大事にしている。 眠れない人には添い寝をしたり、飲み物を勧めたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に応じて、お手伝いしていただき、感謝の言葉を伝えるようにしている。 また、行事などの楽しみ事は、早くから伝えて、会話が弾むようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物でお金を使える方もいるが、お金を毎日数えて楽しんでいる方もおられる。また「お賽銭」と言って、お金を置いて拝まれる方もいる。このような利用者本人の希望に合わせて、職員は見守りをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、受診等、一人一人に合わせた外出支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度、買い物やドライブ等、全員で外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話がかけられる方は、自由にかけていただいている。ご自分でかけられないが、話の出来る人には、取り次いでいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい雰囲気を作っている。ゆっくりくつろいでいただけるよう、居室にて話をしていただいている。飲み物なども用意し、提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなものが身体拘束にあたるかを職員は理解しており、研修にも参加している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りは十分心配りをしている。出かける気配を感じたら、一緒に出かける等して、鍵をかけないケアをしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者がどういう状況にいるかを常に把握しながら、見守りをしている。夜間は、1時間毎の巡視に加えて、起きている方の見守りをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などは、利用者の手の届かないところに保管している。裁縫道具に関しては、ご自分で保管している方もいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状況を把握し、事故を未然に防ぐ取り組みをしている。事故報告書とヒヤリハット報告書を作成しており、事故が発生した場合は、状況を正確に記録し、再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講習を受けている。緊急時マニュアル、病気の症状別対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急時対応に備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練ができていない。 いざという時、落ち着いて避難誘導できるようにしたい。		・訓練の積み重ね(避難訓練、消火訓練等 年1回) ・職員で常に話し合いをする(月1回のミーティング時) ・町内会の消火訓練等に参加する(協力体制を整える)等
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	片麻痺のある方に、歩行訓練を勧めている。転倒の危険性を気にするより、歩けることの大切さを分かってもらっている。一人一人、症状は違いますが、ご家族には理解をいただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員はしっかりと把握しており、異変があれば、主治医に連絡することを徹底している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用、用法、用量については個人ファイルに閉じている。服薬時は、必ず2人で名前、時間の確認をしている。そして利用者本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。異変があれば、主治医に相談をする。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルト、おやつ時には果物を取り入れ、またラジオ体操、ストレッチ、散歩等を取り入れながら、水分摂取量や食べ物、運動などに取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきの声かけや介助を行っている。就寝前には、義歯の消毒をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェックをしている。食事摂取量の少ない方には、好物をうかがったりしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行、施設内の消毒を行っている。 感染症の講習にも参加し、知識を高めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は、毎晩消毒をし、清潔を心がけている。 食材も新鮮なものを購入し、調理時不潔にならないよう、努力している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気持ちよく入れるよう、掃除をきれいにしています。 またベンチ式の椅子を置いて、靴を脱ぎやすくしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけを利用者と一緒に作成します。 季節を考えたものを作ります。 またソファでくつろいだり、居眠りをされたり、テレビを見たり、と思いいいに過ごされ、居心地は良さそうと思われれます。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいいに過ごせるような居場所の工夫をしている	ガラス越しに気の合う人たちが、日向ぼっこをされています。 テレビで時代劇が始まると、居間の周辺に移動します。 また、日中天气が良い日には、庭を散歩されたり、ベランダに出たりと一人になるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時には、出来るだけ自宅で使用されていた馴染みのあるものを用意していただくようお願いしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、換気を行っている。利用者の発汗の様子や冷え等に注意して、調節するようにしている。トイレは換気扇を回している。臭いのこもっている所には、消臭剤を使用するようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は、高さの調節が可能である。また廊下、浴室、トイレには手すりがあり、安全確保と、自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に手作りの表札をかけている。 またトイレが分からない人のために、印を付けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外に畑があり、野菜を間引いたり、芋を掘ったりと、楽しまれている。 中庭に生える草も、一緒に抜いていただいている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方達にとって、第2、第3のふる里とさせていただけるような環境作りをしている。  
また地域住民の方が、自由に気兼ねなく、立ち寄れる雰囲気作りを目指している。  
居室は、外への出入りのしやすいものとなっている。



# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ふる里津之郷の家(2階 たんぽぽユニット)

評価年月日 2007年12月26日

記入年月日 2007年11月20日

記入者 代表/管理者 氏名 金口久美子

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	グループホームふる里の理念は、地域・家族が支えあい、その方にとって「第2、第3のふる里」となれる存在を目指すというものである。そして、その理念のもとにケアを行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	ふる里の理念は、ホール・玄関・トイレ等の普段目に付く場所に掲示してある。管理者、職員はふる里の理念を意識しながらケアを行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	ご家族には、入居時や行事などの折にホームの理念を説明し、それに協力いただいている。地域に対しても、見学会やイベントの際にホームの理念についてもお話させていただいている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	日常的に、散歩などに出かけている。その際、地域の方と挨拶をしたり、畑についての話をしたりしている。畑の作物をいただいたり、お花をいただいたりすることもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	ふる里も町内会に参加している。秋祭りなど地域の行事にもできるだけ参加をしている。また、小学生、中学生のボランティアが来訪してくれるなど地域との交流もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者介護に関する講演会を開催している。また管理者は地域密着型サービスの連絡協議会にも参加しており、事業所が地域にどのように貢献できるかという取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフで話し合い取り組んでいる。外部評価でアドバイスいただいた点は改善するように取り組んでいる。例えば、緊急時の対応について不安がある点についてはおおむね半年に1回の救急時の講習をするようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて外部評価の報告をおこなっている。そしてふるりのケアについて意見を頂いている。また、どうすればよいサービスを提供することができるか話し合っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、福山市担当者と積極的な交流はない。これからどのように市の担当者と関係をもつべきかを探っていきたい。		福山市担当者に運営推進会議に参加していただき、どのように事業所と市との関係を作っていったらいいのか話し合いたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、地域権利擁護事業や成年後見制度について理解をしているが、職員については「知っている」が十分な理解をしていない。勉強会を開くなどして理解に勤めていきたい。		地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会を開きたい。またその専門家をお呼びしての講習会なども企画したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまでに何名か高齢者虐待の講習会に参加をしている。高齢者虐待が見過ごされないように防止に努めている。さらに高齢者虐待関連法について学んでいきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、施設長と管理者が2名にて説明をしている。重要事項説明書では、グループホームの機能、ふる里の理念、利用料金、医療連携体制、個人情報の取り扱いについての説明、退去時の説明などを行っている。また分からない点も確認し、十分な理解を得て契約をさせていただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見に関しては、ホームの玄関に意見箱を設置している。不満・苦情に関しては重要事項説明書に第3者機関を明示している。現在のところ、運営に関する苦情は寄せられていないが、今後そのような意見が寄せられた際には運営に反映させていきたい。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理（購入したもの）は毎月請求書と一緒にご家族にお手紙として送付し、報告をしている。ホームでの過ごし方がよく分かる毎月お手紙を楽しみにされているご家族もいらっしゃる。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見に関しては、ホームの玄関に意見箱を設置している。不満・苦情に関しては重要事項説明書に第3者機関を明示している。現在のところ、運営に関する苦情は寄せられていないが、今後そのような意見が寄せられた際には運営に反映させていきたい。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催しているミーティングでは意見をいう機会を設けている。またミーティングで言うことが難しい件に関しては、スタッフ用の意見箱を設置しており、そこに意見を入れられるようになっている。また業務日報などに書かれた意見もミーティングの議題にするなどして意見を反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>パートの職員の採用により日中はグループホームの職員は一基準より多めの勤務になっている。また行事などでは勤務時間の調整を行うなどし、必要な時間帯に必要な職員を確保できるように努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔なじみの関係を大切にしているので、職員はユニット固定性になっている。移動は極力最小限にしているが、移動する場合は、職員・利用者には負担がかからないように十分に配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修にはできるだけ参加できるように支援している。また、ふる里独自に特別養護老人ホームの新型ユニットにて3日間の研修を毎月1人派遣するという取り組みを開始している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、必要な研修（グループホーム協会主催の研修等）に参加すると共に、タウンソーシャルワーク連絡会に参加している。研修会の開催、意見交換会の参加などによって同業者との意見交換をすることができている。そして、その場で学んだことをサービスの質の向上に生かしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に1回のビーチバレー大会（本社：瀬戸電設工業職員合同開催）、年に数回の食事会を開催するなどして職員が楽しく食事をしながらストレスを解消できるような機会を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会社は、職員の勤務状況、身だしなみ、決められたことが守れるか、意見が言えるか、積極的に研修に参加するかなど細かく評価し、頑張れば頑張っただけの評価を行っているようにしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に、現在生活されている場に面談に伺い、生活状況を把握し、移動のダメージを最小限にするように努力している。また、利用に不安を持たれるかたには、独自の体験サービスを用意している。入居前にふる里の生活を体験していただき、不安を軽減できるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が相談に来られた際は、ご家族の訴えをしっかりと傾聴させていただいている。どのようなことで困っているのか、辛かったことなどを受け止めながら、ふる里でどのように支援できるかをしっかりお話させていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期に入居を希望される場合でふるりに空室がない場合は、他のグループホームや小規模多機能サービスなどを紹介するなどしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、可能な限りご本人に見学にきていただいている。また体験サービスをご利用いただいてから入居をしていただくこともある。また、まずはデーサービスから利用していただき、慣れてこられてから入居していただくなど、その方にあわせてサービスの利用開始を援助している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	援助する側、される側というのではなく、お互いが支えあえる関係になっている。例えば、昔の特技を教えてもらったり、または人生の相談にのっていただいたりしている。普段から「大変じゃのう」「がんばっとるのう」とやさしい言葉をかけていただいている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「職員は、いくら頑張っても家族にはかなわない」本人にとって家族とはかけがえのない人である。職員だけが支えるのではなく、精神的な面からも家族に訪問していただき、一緒に過し支えあえるように関係を作っている。(訪問時に話がしやすいようにセッティングをしたり、コーヒーをだしたりしている)		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が面会に来られた際は、ホームでの近況をお話している。またそれ以外にもホームでどのように過されているかスタッフが家族へお手紙を書いている。それが入居者との会話の種になったりしている。行事にはできるだけ参加して頂くなど本人とのよりよい関係作りを心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスにお友達が来られている方がいらっしゃるので、その方が利用日の時にはデイサービスに会いに行ったり、逆に訪問していただいたりしている。また花札の交流戦などを声掛けしたりして馴染みの人と関係継続の支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが間に入り共通の話題について話をしたりして利用者同士の関係の支援をしている。また同じ「職場」で働いている仲間のようにお互いを気遣ってくださる場面がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームを退去され入院されている方へは、入居者の方とお見舞いに行ったりしている。管理者や職員が定期的に入院先へ見舞いに行くようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から「何処へ行きたいか」「何が欲しいか」「何が食べたいか」などを話題にして意思の把握に努めている。意思の表現が難しい方には選択肢で選んでもらうように工夫もしている。またご家族から好みなど情報を得たりしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在、ユニット全員にセンター方式を導入している。それで一人ひとりの生活歴の把握に取り組んでいる。また面会時などにも昔のお話を聞いたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録は、日中・夜間共に詳しく記録をするようにしている。どのように過されたのか、どのような会話をしておられたのかなどその場が想像できるように記録するように心がけている。それによりその方の「今」を把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族(本人)、主治医、スタッフの意見を盛り込んで作成している。しかし、現在は少人数でのカンファレンスになっている。今後は多くのスタッフの意見が十分に反映されるように取り組んでいきたい。		介護計画をスタッフが主体的に取り組めるようにしていきたい。多くの意見が取り入れられるようにしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、毎月見直しを行っている。状況に合わせて介護計画を修正したり、新たな取り組みを盛り込むなどその状態に応じて迅速に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録は、細かく記入できるように書式を作っている。計画の実施状況、結果、気づきなども記入している。また介護記録以外にも運動チェック表、睡眠チェック表、24時間変化シートなどをりようしている。介護計画の見直しにも活かしている。また記録は出勤したら必ず確認することを義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は、多機能性を活かした支援は行っていない。		グループホームの空床利用の短期利用共同生活介護開始の検討。また認知症対応型通所介護の開始の検討などをしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に、フラダンスのボランティア、大正琴のボランティア、小学生のボランティアなどが来てくださり、入居者の生活を支援してくださっている。またホームヘルパー養成校、中学校の職業体験実習などとも連携し、協力しながら支援している。警察はもちろん、消防署とも適切な連携を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に合わせて、地域の理美容師さんに訪問していただいている。毎月来てくださるのでもうなじみの関係になりカットをしながら楽しくお話をされている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に参加していただいている。これをきっかけに関係がさらに強化した。現在は困難事例や虐待事例はないがそのような事例が発生したら協力して解決していきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望されるかかりつけ医になっている。内科以外の認知症専門外来、皮膚科なども希望される病院まで受診介助をさせていただいている。ご家族の同意の下スタッフもホームでの様子をお伝えし、どのように対応したらいいのか指示を仰ぐようにしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入社時にはスタッフが入居者やご家族の個人情報を守ることを徹底させている。また折をみてミーティングでもその重要性について話をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の側に寄り添い、本人がどのように思っているかしっかり読み取るように努力している。場合によっては開かれた質問だけではなく閉ざされた質問を使うことによってその方の意思を把握するようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の一日の流れはあるものの、体調に合わせて昼寝をされる方、散歩に行かれる方、花札をされる方、新聞を読まれる方、買い物に行かれる方、それぞれのやりたいことを大切にしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ある方は、一日数回乳液とリップクリームをつけられて肌に気を遣っておられる。ある方は、着る服をダンスから一生命選ばれている。その方に合わせたおしゃれができるようにスタッフを支援している。理美容院に関しては特に希望がないので地域の理美容師さんをお願いしている。それぞれ思う髪形を注文されている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は、利用者・職員が同じものを同じ時間に食べるようにしている。食事も職員の手作りである。一緒に料理本を読みながら献立を考えたりしている。また、野菜の皮むき、もやしの根とり、配膳、配茶などできることをお手伝いしていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を飲むことが好きな方に対しては、管理者が夜勤のときにお酒をお出ししている。また以前ヤクルトを定期購入されていた方はヤクルトを注文されたりしている。またご家族が「炭酸飲料が好きだから」とか「おやつを食べることが好きだから」等で差し入れをしてくださる等本人の嗜好の支援ができています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけ、おむつやリハビリパンツを使用をしなくても済むように支援している。排泄チェック表を参考にしながら、その方に応じた排泄の声掛け、介助を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、本人が望まれば毎日入浴できる体勢を整えている。また、ユニットのほとんどの利用者の方は毎日入浴されている。入浴後にジュースを飲まれる姿をみると入浴を楽しんでおられるように思える。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中は活動していただき、夜間に十分な睡眠をとれるように取り組んでいる。夜間に不眠の方には専用のチェック表を用いて記録を行い、定期的に主治医、認知症専門医に相談するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ある方には、食事を食べる時の挨拶を。ある方には食事の下ごしらえを。ある方には食事の配膳、配茶を。ある方には洗濯物たたみを。その方の能力に合わせた役割を持っていただいている。また、花札をお友達と楽しめたり、買い物へ行ったりし楽しみ、気晴らしを支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者がお金を持たれてはいないが、お財布を持っていること、お金を持っていることで安心する方にはご家族の協力の下お金を持たせていただいている。普段お金を持たれていない方へ対しても、ホームの買い物の支払いをして頂く機会を作るなどしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や博物館への見学、アミューズメント施設への外出、外食なども利用者の希望を聞きながら実施している。また個別に買い物に行ったり、散歩へ出かけたり、受診の為に外出したりとそれぞれにあわせた外出支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から「みんなは何処に行きたいか？」を話し合っている。秋には気候がいいのでいつもの外出よりも遠出を計画し、実行した。大三島の伯方の塩工場へ見学し、マーレグラシア大三島にて食事を楽しんだ。「家にいたらこんなところに来れなかった」と喜んでくださった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら家族に電話をしたいときには、電話をかけたり支援している。また年賀状を書けるように支援もしている。その他個別に母の日にプレゼントが届くとお礼のお手紙を一緒に考えながら書いたりという支援も行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族には気軽に訪問しやすい雰囲気を作っている。訪問時間も特に定めておらず都合のいいときに訪問していただけるようにしている。訪問時にはコーヒーなどの飲み物を提供し、飲み物を飲みながらゆっくりお話ができるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束とはどのようなものであるか、禁止と対象になる行為はどのようなものを理解している。また、身体拘束の弊害を十分に理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけていない。出て行く気配を見落とさないように、見守りには十分心配りをしている。また、出かける気配を感じたら、引き止めずに一緒に出かけるなどして鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間の記録を書くときは、廊下が見渡せる場所にて利用者の様子を把握しながら記録するように決めている。日中のスタッフの仕事は時間によって分担しており見守りのスタッフを配置している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒用の薬品や内服、外用薬などは利用者の手の届かない場所にて保管している。薬に関しては厳重に管理している。居室には利用者の能力に合わせて必要な物品を置いている。認知能力が低下した方にたいしてはこちらで保管し、必要時に提供するように工夫している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書とヒヤリハット報告書を作成しており、事故内容とその対策を考えて記入するようになっている。報告書の内容はスタッフに伝達され、再発防止のために利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時にそなえて緊急時マニュアルと病気・症状別対応マニュアルを作成し、全スタッフに配布している。またホールにも常備している。全ての職員は半年に1回、緊急時の対応の研修を受けている。また消防署に協力を依頼し、普通救命講習を年1回開催している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災などの災害時にはどのように対応したらいいのかをミーティングにて話し合うようにしている。また消火器の参集訓練なども定期的実施している。さらにマニュアルの作成などにも取り組んでいきたい。		災害対策マニュアルの作成に取り組むたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が、「職員さんに迷惑がかかるので」と拘束を希望されることもある。しかし、その方を尊重した暮らしの重要性を説明し、理解をえられるようにしている。また、転倒などの危険性についても十分にご説明し、スタッフもできる限り怪我の無いように配慮している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「あれ？おかしいな？」と感じたらスタッフとその場で話し合っている。管理者への報告や必要時には主治医に相談し、速やかに対応するようにしている。またそのことを記録に残し、伝達するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬されている薬については個人ファイルに整理してある。また服薬介助時は必ず2名で「名前、服薬時間」の確認をするようにしている。間違い防止の為に色分けする工夫している。服薬できたか最後まで確認するようにしている。症状に変化のある場合は主治医に指示を仰ぐようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多く、朝のラジオ体操・ストレッチ時には必ずお腹のマッサージを取り入れている。おやつにはできるだけ牛乳を取り入れている。食事も繊維質食材を取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨き、うがいを声掛けている。その方に応じた口腔ケア用品を用意している。(デンタルリンス、スワブなど)就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日チェック表に記録している。特に水分は摂取量の少ない方がおられるので重点的に水分の把握を行い、こまめに水分補給をしていただくようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの徹底を心がけている。また、ホーム独自のマニュアルを作成し、感染などに対する正しい対応が取れるようにしている。マニュアルは医療機関、保健所より指導を受け作成している。また施設内の消毒は時間を決めて徹底して行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん、スポンジなどは毎晩消毒を行っている。また、台所は清潔を保つようにしている。食器洗浄機は週に1度消毒を行っている。冷蔵庫も週2回消毒を行い、同時に食材の賞味期限の確認も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には入居者の方と一緒に作った表札を飾っている。またブラックボードにはスタッフが季節にあわせたイラストと、メッセージを書いている。また子ども用スリッパも用意するなどして、来客への配慮もしており、安心して入りやすい環境を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座り心地のよいソファーにはいつも入居者が集まっておられる。畳の居間も過しやすい。枕やクッション、座布団やタオルケット(冬季には毛布)などを準備し、自由に過していただけるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに限りがあるので、一人で過す場所は少ない。しかし、ベランダ側に誘導して過していただいたり、皆さんがテレビを見ておられる場合はテーブル席へ誘導したりしてハード面で不足分をソフト面で補うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、家具などを新調するのではなく、できるだけ自宅で使われていた馴染みのある家具、洋服、小物などを用意して頂くようお願いしている。家族の方も写真や手芸道具、雑誌などを持って来てくださり、その方が過しやすい環境になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内に湿温度計を設置している。スタッフが心地よい温度に調節するのではなく、入居者に合わせるように声掛けし適温かどうかを確認して調節している。また、毎日定期的に換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所は、高さが調節できるように可動式になっている。浴室には手すりを増設している。居室のトイレにも手すりがある。また建物以外に自走される方でフットレストで怪我をしやすい方はフットレスが取り外し式の車椅子を準備している。その方に応じて安全で自立した生活ができるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には手作りの表札をかけている。間違われることが少ないが、迷われた場合にはスタッフが声掛けをしている。また施設全体としては扉の多い作りになっているため「グループホーム」とわかりやすく表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には花を植えており、季節に応じた花を楽しんでいただけるようになっている。一緒に草取りをしたり、散歩をしたり日常的に活動できるようにしている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ふる里は、街中ではなく田舎に存在している。散歩をすれば畑や田んぼの作業をされている地域の方とふれあうことができるという特性を持っている。また、最初の開設時に比べてグループホームへの理解がすすんできているように感じる。以前は「養老院」「姥捨て山」のイメージが強く「あそこに入居したら人生終わりよ」という声もあったが、地域に溶け込めるようにさまざまな行事を企画したり、小学生・中学生・ボランティア・研修生の受け入れによりふる里のケアがどのようなものかの理解を得られるようになってきていると感じる。「自分が歳になって介護が必要になったら是非ふる里に入居したい」と言って下さる方も増えている。

そして、一番アピールしたい点は、ふる里のたんぼぼユニットのスタッフについてである。スタッフは、本人が何を求めているのか、それに応えるにはどのようにしたらいいのかを積極的にかんがえて、前向きに努力している。新しいことにも積極的にチャレンジしている。また、ケアは一人でするものではなくチームでするものと捉え、協力していくことの重要さも理解している。

自分がもし認知症になってもこのようなスタッフが集まって支えてくれるホームがあるということはとても心強いな、と思う。